



第36期第4回京都市社会教育委員会議の模様をマナビがレポート！

令和6年6月28日（金）に、京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）において、第36期京都市社会教育委員会議の第4回目となる会議が開催されました。「京都市生涯学習総合センターと京都市図書館の取組について」議論されました。

■ 出席委員（17名のうち15名） ※五十音順

稲垣 恭子 委員、大脇 晋太郎 委員、佐竹 美都子 委員、園部 晋吾 委員、
豊田 まゆみ 委員、永田 紅 委員、中本 貴久 委員、七海 薫子 委員、
二宮 靖男 委員、原 敏之 委員、本郷 真紹 委員、柁木 良子 委員、
松田 規久子 委員、森 清頭 委員、森口 真希 委員

第36期第4回京都市社会教育委員会議 次第

開 会

1 議 事「京都市生涯学習総合センターと京都市図書館の取組について」

- (1) 京都市生涯学習総合センターの説明
- (2) 京都市図書館の説明
- (3) 図書館及びアスニーの見学
- (4) 協議

2 報 告

- (1) みやこ京 まナビミーティングについて
- (2) 令和6年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会（WEB開催）について
- (3) 令和6年度近畿地区社会教育研究大会（京都大会）について
- (4) 令和6年度京都市教育委員会予算（第二次編成）について

3 主催事業及び刊行物の案内

閉 会

■ 議 事「京都市生涯学習総合センターと京都市図書館の取組について」

○ 事務局説明（小野生涯学習推進課長）

[京都市生涯学習総合センター](#)は、京都市の生涯学習の拠点であり、社会教育法で規定される公民館にあたる施設となっており、京都アスニーとアスニー山科の2か所あります。[京都市図書館](#)は市内に20か所と移動図書館を運用しています。

京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン2025」では、京都アスニーにおいて魅力ある取組を推進し、市民の生涯学習の機会を一層促進すること、また、市民の学びと交流の拠点として、図書館機能の充実を図り、気軽に利用できる環境整備を進めることを目標としています。

本日は、京都市の生涯学習施設での取組について意見を頂戴したいと考えています。



○ 事務局説明（生涯学習部 満田施設運営係長）

京都アスニーとアスニー山科、京都市図書館の運営は、公益財団法人京都市生涯学習振興財団に事業委託し、京都の歴史と文化を生かした多彩な生涯学習事業を推進しています。

京都アスニーでは、新型コロナウイルスの影響で一時的に入館者数が減少しましたが、昨年5月からは従来の事業が再開され、令和5年度の京都アスニーの来館者数は約33万人で、コロナ禍前の水準に徐々に近づいています。事業参加者数はコロナ禍前の約8割、貸館利用率も約9割まで回復しています。

京都アスニーとアスニー山科では、人生100年時代を見据え、市民が学びを通じて豊かな人生を実現し、生きがいを持って暮らせるまちづくりを目指しています。事業は、京都市との委託契約に基づいて実施する受託事業と、生涯学習振興財団が独自に企画実施する自主事業があります。

受託事業のひとつである「アスニー特別講演会」は、大学・企業・関係団体と連携し、歴史・文化・伝統芸能など幅広いテーマで毎年30講座を無料で開講しています。5月には、[京まなびミーティング](#)との共催で、本郷委員やサコ委員に御講演いただきました。また、「アスニーシネマ」などの視聴覚事業や学びの成果発表の場として「アスニー文化祭」を開催しています。

京都アスニー1階の[「古典の日記念 京都市平安京創生館」](#)では、平安京や平安時代の建造物の復元模型や映像資料などを展示しています。[「平安京の暮らしと文化体験コーナー」](#)は、昨今の観光客の増加やNHK大河ドラマ「光る君へ」の影響もあり、多くの人々が体験しています。なお、館内の復元模型は、大河ドラマ「光る君へ」のオープニング映像のCG素材として使われています。

この他、自主事業として、「アスニーアトリエ（美術工芸などの実技講座）」や「アスニーセミナー（歴史文化などの教養講座）」、平日に来所しにくい方を対象に京都に縁のある作家等が登壇する「アスニー土曜プログラム」も開催しています。今年度は、茶道裏千家十五代・前家元の千玄室京都市生涯学習総合センター所長の提案により、新しく京都アスニー「習心塾」が開講され、全国から170人近くの申し込みがあり、抽選により44人が入塾しました。

また、昨年度開館25周年を迎えたアスニー山科では、文化祭で山科図書館とコラボして絵本の読み聞かせ等を実施し、普段アスニー山科を利用されない親子連れにも来ていただくなど、多種多様な事業や講座を実施しています。

今後の展望について、デジタル化の推進と自然災害の増加を踏まえ、今年度中に館内にWi-Fi環境を整備する予定です。これにより、オンライン会議や研修会での利用が可能となります。さらに、当施設は避難所として指定されており、災害時の安否情報伝達や防災情報収集にも活用できます。これらの取組は、利用者のサービス向上と災害に強いまちづくりに寄与すると考えています。



○ 事務局説明（生涯学習部 山内事業企画係長）

京都市図書館は市内に20館設置しています。また、図書館を利用しにくい地域の方々のために移動図書館が巡回しています。令和5年度の入館者数はコロナ禍前の令和元年度比で約84%、貸

出人数は約93%、貸出冊数は約92%となりました。電子書籍を含めた予約冊数は令和元年度比で約106%と、ネット等で予約をして最寄りの図書館で受け取る利用方法がコロナ禍で広く浸透したと考えられます。

新しく導入した[電子書籍サービス](#)は、返却手続きが不要で大変便利です。また、文字の拡大や音声読み上げ機能がある書籍もあり、読書バリアフリーの観点からも有用です。能登半島地震の被災者支援としても、石川県七尾市の皆様に電子書籍サービスを提供しました。今後も引き続き、電子書籍の活用を広く市民の方に浸透させるため、広報活動に力を入れていく予定です。

子どもの読書活動の推進に向けては、子どもたちが本に親しむためのイベントや中高生の図書館利用を促進するためX（旧ツイッター）等を利用した情報発信や、子どもの読書活動を推進するリーダーを養成するための「子どもの本コンシェルジュ養成講座」などを開催しています。また、学校との連携事業として、図書への団体貸出や教職員向けの研修への講師派遣、出前事業専用車両「青い鳥号」による学校園へのブックトークや出前講座の実施など、様々な取組を実施しています。

また、子育て世代に対しては、東山図書館において、区役所や地域市民活動センターの協力のもと、ベビー・キッズ用品交換会などの新しい取組が行われ、図書館が交流の場となっています。さらに、幼児コーナーのリニューアルや授乳室の設置等、子育て世代が安心して図書館を利用できるよう施設の整備を進めています。

シニア世代に対しては、折り紙教室や脳トレ活動などを図書館で実施し、地域の高齢者と小学生が交流する機会にもなっています。また、文化芸術事業として「古典の日お楽しみ会」や絵本作家による講演会なども開催しています。

これからも図書館では知識の提供にとどまらない生きた情報を発信することによって、あらゆる市民の知的好奇心に応えられる居場所となるように努めていきます。

■ 施設見学（中央図書館、京都市平安京創生館）



■ 協議

○ 森 清頭 委員（北法相宗宗務長、清水寺執事、上智大学グリーンケア研究所非常勤講師）

中央図書館では、キッズスペースやベビーカーの動線が考えられており、子ども連れで図書館を利用する際には大変ありがたいと感じました。

図書館の使い方について、本を読むことに加えて、中高校生に資料検索の方法を教えるなど、様々な使い方を学ぶ機会があると良いと思いました。電子書籍とアナログな調べ方の両方が大切で、例えば、辞書は調べた内容の前後を読むことで役に立つ場合があります。

電子書籍は1冊を同時に複数で読めるようになると物理的な制約がなくなり、本の貸し出しを広域にできる可能性があると感じました。



京都アスニーでは、京都ならではの様々な企画が実施されていますが、千玄室大宗匠の「習心塾」については、受講枠を広げて、コンテンツとして展開されることを期待しています。

京都アスニーの一番のウィークポイントは立地だと感じています。アクセスが改善されると良いですが、現在コンテンツが育っている場所であることを考慮し、広報の仕方を検討する必要があります。コロナ禍を経て、デジタル技術の活用、録画コンテンツの提供などを通じて、アスニーの知名度を高め、多くの人々にアピールする機会になればと思いました。

○ 本郷 真紹 議長（学校法人立命館理事補佐・立命館大学文学部特命教授）

アナログな調査方法、特に書庫に入って初めて発見する情報は有益です。目録を見て資料の閲覧を依頼する方法では、情報が限られてしまいます。その点を考慮して、工夫が必要だと思います。

京都市平安京創生館は、市外や外国からの観光客にとっても魅力的な場所です。時間的な制約やアクセスの悪さから、宝の持ち腐れになっているのは本当に惜しいことです。将来的に改善されることを願っています。



○ 原 敏之 委員（日本労働組合総連合会京都府連合会会長）

アスニーや図書館がコミュニティの場として重要な役割を果たしていると感じました。図書館が20か所ある一方で、アスニーは2か所しかないことは気になります。立地条件やお体の事情で来られない方々もいると思いますので、行政の連携や対策が重要です。アスニーと図書館の業務を考慮しつつ、より多くの方々に利用していただけるような取組が求められていると感じます。

もう一点、図書館は紙の資料が集まっていますが、火災や地震への対策はどうされているのでしょうか。災害発生時に、来館者や子どもたち、図書館スタッフが多くいる中で、適切な対応ができるよう訓練を行うことも必要です。図書館の対応策について教えていただければと思います。



○ 豊田 まゆみ 委員（一般社団法人京都市地域女性連合会理事）

私は月2回ほど西京図書館を利用しています。中央図書館は、蔵書数の多さに驚きました。

最近、小学校の読み聞かせの会に参加し、子どもたちは本が大好きだと再認識しました。孫は、本をインターネットで予約して借りています。また、中学校では毎年1回ビブリオバトルがあり、本離れを防ぐために様々な取組が行われていると感じました。

アスニーについて、京都の東部には、アスニー山科がありますが、西部にはそうした施設がありません。オンライン講座を利用できる高齢者は限られているかもしれませんが、家でオンライン受講できたらとても良いと思います。

女性会として、地域で講演会を開催していますが、先日、福祉事務所から連絡があり、聴覚障害者への配慮が不足していることに気づきました。その対応策の参考に、手話通訳ボランティアを活用されたことはありますか。

また、火災対策について、国会図書館では水による蔵書の損傷を防ぐための特殊な消火方法があるそうですが、京都の図書館でも同様の対策がとられているのでしょうか。



○ 事務局

聴覚障害のある方に対しては、以前は要約筆記などを行っていましたが、最近では要約筆記希望のお申し出はほとんどありません。また、視覚障害のある方への取組としては、全国的な組織である「サピエ」に参加し、本を朗読したCDを豊富に取り揃えて提供しています。音声読み上げ機能や文字の拡大機能を備えた電子書籍も導入しています。引き続き、障害のある方々へのニーズに対応できるよう努めていきます。

アクセスに関しては、市内では電動自転車やキックボード等の貸出サービスが増えており、京都アスニーや図書館にポートを設置するなど、新しいモビリティを活用していくことでアクセスを向上させることも検討しています。

防災について、図書館各館では、市の防災基準をもとにマニュアルを整備し、貴重な資料を守り、職員および利用者の皆様が安全に避難できるよう避難訓練を行うなど、様々な災害に対応できるよう努めています。さらに、中央図書館の書庫には貴重な資料の水損を防ぎ、極めて短時間で消火できるハロゲン化物による消火設備も設置しています。なお、万が一の火災に備えて、スプリンクラーなどの消防設備の整備点検も定期的に行っています。

デジタルトランスフォーメーション（DX）の観点からは、今年度予算で京都アスニーにフリーWi-Fiの整備を進め、講座のオンライン配信を検討しています。Zoom配信や、災害時に避難者にWi-Fiを提供することも可能となります。また、高齢者を含めたアクセスしやすい配信方法も考えたいと思っています。

○ 七海 薫子 委員（市民公募委員）

私は「[京まなびパスポート](#)」を活用しながら、気になる講座を受講しています。アスニーの無料の講座はありがたく、有料でも840円なので参加しやすいと思います。アスニーの講座「時代を超えて響く歎異抄の言葉」を受講した際には、図書館司書の方が熱心に関連図書を紹介していただき感謝しました。図書館司書は本を貸し出すだけでなく、知識豊富な専門職として認識されるべきだと感じました。

京都市平安京創生館では、立命館大学等との連携で資料のデジタル化をされ（※1）、素晴らしい取組だと思えます。

図書館では、パスファインダーのデジタル化はされていますが、さらにデジタルアーカイブを充実させることで、利用者のサポートにつながると思います。電子書籍サービスは便利ですが、来館して図書館を利用される方への配慮もされると良いと思いました。



（※1）

「平安京跡データベース」

立命館アート・リサーチセンター、歴史都市防災研究所と京都市平安京創生館が連携して、現在の地図上に過去の発掘調査地点を表示し、HPで公開中です。

<https://heiankyoexcavationdb-rstgis.hub.arcgis.com/>



○ 稲垣 恭子 委員（京都大学理事・副学長）

多様な企画が実施され、それぞれのニーズに合わせて企画を提供されている点は素晴らしいです。さらにアスニーと図書館の連携を強化することで、魅力的な企画が生まれることを期待しています。

京都は、市民だけでなく、インバウンドの観光客も多く訪れるため、広報活動を通じてブランドの知名度を高めることが重要です。

また、図書館とアスニーの1階を改装して共通のスペースを作り、来場者にとって魅力的な空間を提供することが大切です。



デジタルを利用される方と対面で来られる方のニーズは異なりますが、バリアフリーサービスは重要です。京都大学では、公益財団法人 文字・活字文化推進機構とのコラボレーションにより、日本語多読ブックや多言語の電子絵本を作成し、貸し出しています。日本語多読ブックは、短いストーリーを電子ブックとして提供し、外国人の子どもや大人の日本語学習者に役立つものです。多言語電子絵本は、日本人が楽しみながら多言語を学ぶことができ、異なる言語を通じて日本の文化に触れることができます。

○ 森口 真希 委員（株式会社堀場製作所 理事 管理本部副本部長）

通信環境を含めたデジタルデバイドの問題に対応するヒントとして、企業の事例が役に立つかもしれません。情報をサテライトで一度受け取り、その場所にリアルで集まって内容を話し合う方法があります。企業が世界中に拠点を持つ場合も、サテライト形式で学びを深める方法が効率的です。公民館が少なくても、各地域で集まる場所があれば、個々のスキルに頼らず、学びの場が広がる可能性があります。

また、聴覚障害の方々が音声言語を文字起こしするアプリを持っていることも多く、ハンデが技術によって埋められつつあるのは良いことだと思います。

私が「京都について学びたい」と思ったとき、美術館や博物館に行くことしか選択肢はありませんでしたが、平安京創生館で京都についての情報を集めることができると本日知りました。図書館やアスニーは、京都の貴重な財産を保有されていますので、ぜひ、発信に力を入れていただきたいです。自治体との連携も上手く進めば良いと思います。最近、お寺が様々な取組に開放されているため、お寺で出前講座をすることも可能ではないかと思います。



○ 榎木 良子 委員（同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師）

現在、北山地区では旧京都府立総合資料館の跡地の再開発が進行中で、シアターコンプレックスの建設が提案されています。これは老朽化している京都府立文化芸術会館と閉館した京都こども文化会館の機能の一体化を目指すものです。京都には、ロームシアターのような大ホールや音楽専用のコンサートホールはありますが、小劇場が少なく、市民が発表する場所が不足しているという問題があります。アスニーに、お芝居をする場所や市民が練習できるスペースがあれば、利用者が増えるのではないかと思います。



○ 佐竹 美都子 委員（株式会社西陣坐佐織代表取締役、アテネオリンピックセーリング競技日本代表）

行政としてどの程度収益を求めるべきかはわかりませんが、市民の方が興味関心を持っている学びのニーズを捉えて、取組を拡大することは重要です。

図書館のピブリオバトルや京都アスニーの「習心塾」などの取組を強化し、注目を集めることも可能だと思います。マンガミュージアムでは、月に1回、最終の土日に全国からコスプレイヤーが集まってイベントが開催されています。このように大きなイベントを開催し、活動をPRしてはいかがでしょうか。



○ 永田 紅 委員（歌人、京都大学特任助教）

災害直後は生存が最優先ですが、少し落ち着いたときに本があると心強いですね。東日本大震災の際には、移動図書館が活動し、人々に安心感を与えましたが、段ボールに詰められた本が整理されずに積み上げられている現状もあると聞き残念に思いました。電子書籍はそのような問題を解決する最適な手段であると感じました。

また、子育て世代に対する配慮やイベントの開催情報については、情報が必要な人々に適切なタイミングで届くことが重要です。図書館には、チラシや雑誌のコーナー等、情報をまとめて見られる場所があり、そこに行くことで学びがつながるように思いました。

先ほどの図書館のバックヤード見学が面白かったので、夏休みに子ども向けや大人向けの見学会を開催してみても良いと思います。

外国人観光客に対する取組については、京都アスニーがツアー行程に組み込まれることで、収益を得られる可能性があると思います。（※2）



（※2）「京都市平安京創生館」の「平安京の暮らしと文化 体験コーナー」では、平安装束の着付け等を無料で体験できます。

<https://asny.ne.jp/souseikan/kurashi.html>



○ 松田 規久子 委員（京都新聞社文化部編集委員兼論説委員）

建物について、高齢化が進み、特にトイレや水回りは改修が必要ではないかと思いました。

Wi-Fi環境が整備されたときに、高齢者が自分で接続しようとする、接続が断続的になる等、視聴し続けるのが困難になることがあります。例えば、洛西ニュータウンの小学校の空き教室を利用して「サテライト洛西アスニー」を設置するなど、サテライト機能があれば便利だと思います。

また、平安京創生館は本当に素晴らしく、利用者がもっと多くても良いと思います。説明して下さるボランティアの方々が生き生きとされていて、中高年の方が活躍できる施設でもあると思います。もっとボランティアを募集し、この活動に力を入れていくことも可能ではないかと思いました。



○ 本郷 真紹 議長（学校法人立命館理事補佐・立命館大学文学部特命教授）

予算の関係もあると思いますが、施設の改善は非常に重要です。20年前に小学校の建設業務を担当したとき、子どもたちが本を読むスペースは、原則として角を取らなければならないと学びました。例えば、マットを四角ではなく丸く置くと、子どもたちの気持ちが落ち着くのです。ハード面での改修は難しいかもしれませんが、本棚やソファの配置など少しの工夫で、利用者にとってより良い空間づくりができるのではないかと思います。

○ 大脇 晋太郎 委員（市民公募委員）

図書館主導で映画製作に取り組まれてはいかがでしょう。

社会現象にもなった「鬼滅の刃」の原作マンガは、アニメが始まるまで打ち切り寸前でしたが、アニメが始まって人気が高まり、当時の少年ジャンプを代表する作品になりました。こうした映像から本（原作）への流れを利用します。

例えば、心理描写や時代背景があまり入っていない夏目漱石の「こころ」をとりあげ、図書館司書が時代の考証や参考文献の提供を行います。そして、全国高校放送コンテストで入賞経験のある高校生などが作り手となり、地域の人々と関わりながら、地域全体で映画を製作し、完成した映画は図書館などで上映します。自宅近くが舞台になれば、映画を観に来てくれると思いますし、図書館への来館者が増え、利用促進につながると考えています。



○ 二宮 靖男 委員（京都市小学校長会理事、京都市立翔鸞小学校長）

子どもたちは、小学校の規則で放課後に校区外へ行くことが難しいため、休みの日に保護者と一緒に図書館に来てほしいと思っています。

図書館を利用するのは学びに意欲的な層の方が多く、その次の層の方にも図書館の楽しさを感じてもらう機会をつくるのが大切です。

京都市立幼稚園では、Instagramを活用して情報発信していますが、保護者が情報を得る手段としてInstagramは有効だと思います。図書館でも面白い企画を発信して注目を集めることができれば、認知度が高まると考えています。京都文化博物館などでも、アニメやロボットの特撮の展覧会などが増えているように思います。興味を引く企画があれば、子どもは保護者に図書館へ連れて行ってもらい、それが図書館に足を一步踏み入れるきっかけになると感じました。



○ 園部 晋吾 委員（NPO 法人日本料理アカデミー副理事長、山ばな平八茶屋主人）

会議でアスニーを利用しようとしたところ、Wi-Fi がないため別の会場を使わざるを得なかったことがあり、Wi-Fi 環境の整備はありがたいです。

建物について、カフェや雑貨店を併設すれば若い人が出入りしやすくなり、受講者同士で話すなどしてコミュニティが広がると思います。

講座の内容については、学びたい方向けに新たな知識を提供するものが多いため、若年層向けに「触れる」、「きっかけを提供する」という観点を重視した講座も必要だと思います。例えば、能楽などの伝統芸能について、子ども向けの解説付き講座を開催することで、能について知ることができ、中級・上級編の講座に進むきっかけになると思います。職員の働き方も考慮する必要がありますが、子ども向けの講座は土日祝日に開催することが重要です。これにより、次世代の生涯学習者を増やすことができるのではないかと考えています。



○ 中本 貴久 委員（令和5年度京都市PTA連絡協議会会長）

PTAは、京都アスニーの2階に事務局があり、理事会等で頻りに利用しています。私は山科に住んでいるので、山科アスニーに馴染みがありますが、公民館は市内に2つしかないと知って驚きました。西京区にもアスニーのような施設があれば良いですし、学びの場ができるだけ広範囲にあるのが望ましいと思います。

Wi-Fi環境の整備などを考えられているとのことですので、PTAとして保護者に広報発信するなどの協力をすることもできます。



■ 報告-1 京まなびミーティングについて

京まなびミーティングを「アスニー特別講演会」として、5月10日に本郷議長、17日にはサコ委員に、ご講演いただきました。多くの市民の皆様にご来場いただき、大変好評でした。

■ 報告-2 令和6年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会（WEB開催）について

今年度は京都市が当番市となり、指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会を7月5日に Zoom で行います。本市社会教育委員会議を代表して本郷議長に参加いただく予定です。

■ 報告-3 令和6年度近畿地区社会教育研究大会（京都大会）について

近畿地区社会教育研究大会（京都大会）が9月6日に京都テルサで開催されます。

■ 報告-4 令和6年度京都市教育委員会予算（第二次編成）について

令和6年度の京都市教育予算について、松井市長の就任に伴い、事務的な経費を中心とする第一次編成予算と、マニフェスト等を踏まえ、政策的な事業に要する経費を中心とする第二次予算の2段階の予算編成が行われています。教育予算としては、第二次編成分として7億8,700万円が計上され、内容は施設整備に係る経費が中心となっています。引き続き、子どもたちが安心して快適に過ごすことができる教育環境の整備と、生涯学習環境の一層の充実に取り組んでいきます。

■ 主催事業及び刊行物の案内

■ 稲田教育長挨拶

■ 閉会

※この摘録の作成には補助的に生成 AI を利用しています。